

3. アンケート結果および考察

1) 川遊びの経験・頻度について

図-2は3世代における流域ごとの川遊び経験割合を示すものであり、図-3は1週間あたりの川遊びの頻度を示すものである。これらの図より、上流から下流へ下るほど、かつ、年代が低くなるほど川遊びの経験割合、頻度ともに低くなっていることがわかる。

2) 川遊びの種類について

図-4は流域全体の3世代における川遊びの種類ごとの経験割合を示すもので、図-5は下流での3世代の川遊びの種類ごとの経験割合を示すものである。図-4より、近年になるにしたがって水泳などの、全身川に入っていく遊びが少なくなり、水遊びや石投げなどの、川に直接入らなくてもよい遊びが多くなっていることがわかる。図-5より、特に下流において、この傾向が高くなっている。

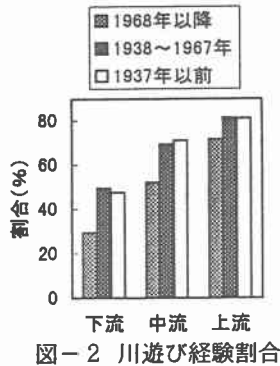


図-2 川遊び経験割合

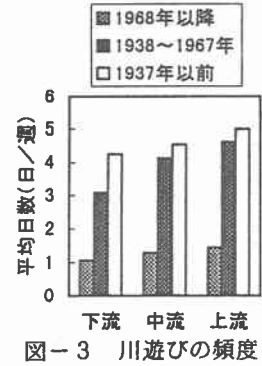


図-3 川遊びの頻度

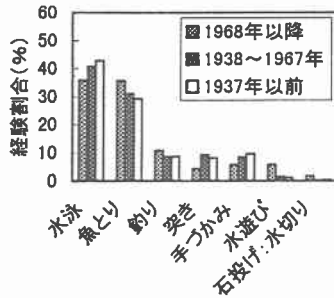


図-4 川遊び変化 (総合)

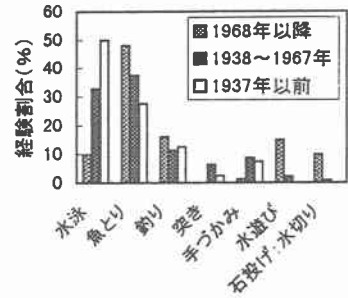


図-5 川遊び変化 (下流)

3) 社会環境変化の変化による川遊びの影響

図-6は生まれた年を5歳ごとに区切った男性の川遊び経験割合、川遊びの頻度を示すもので、川遊びの経験割合は、1986年以降急激に減少している。また、川遊びの頻度は1966年以降減少し始め、1981年以降急激に減少している。これらの減少の主な原因としては、

- ①プールの建設 (1963～1973年)
- ②テレビゲーム (1983年発売)
- ③学校、保護者による規制

などの社会環境的要因が考えられ、①および②の時期を図中に示す。図-6より、①あるいは②の時期と、川遊びの経験あるいは頻度の減少期とある程度一致しており、これらの要因が影響している可能性が高い。しかしながら、アンケートでは、学校等で川遊びを禁止されていたという回答も多く得られており、③やその他の要因の影響も考えられる。

4. おわりに

本研究で行ったアンケート調査によって、千代川流域における子供の川離れの時期および川遊びの変遷がある程度明らかにすることが出来た。今後は、データ数の少ない年代のデータを補充し、川離れの原因についてさらなる検討を行うことが望まれる。

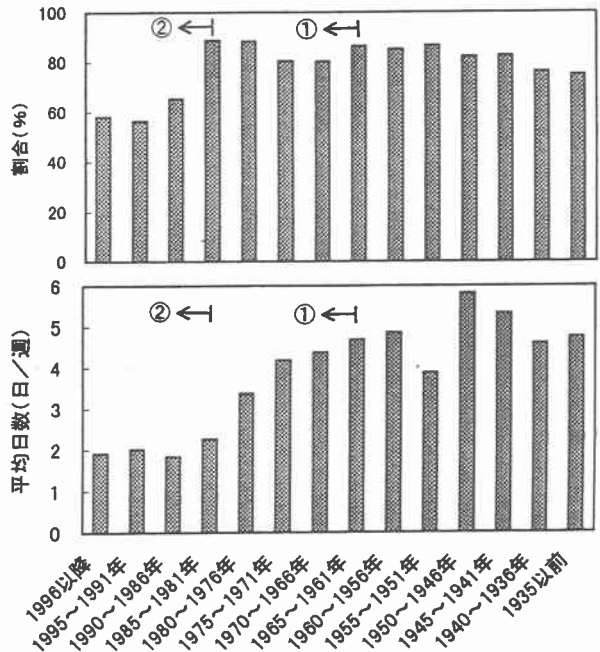


図-6 社会環境変化の川遊びに及ぼす影響